

利用したくなる図書館

テーマ：これまで以上に利用したくなる図書館を提案する

C1240718 小松遼斗

1. 共感

東北公益文科大学（以降、公益大と示す）内に設置されている図書館で、実際に勉強を目的として利用を体験することで、この図書館を更に利用したくなるようにするにはどうすればいいかを考えた。実際に利用してみて感じたこととして、コンセントなどが備わっており、一人で勉強するには適しているが、少し閉鎖的で圧迫感があり、居づらいと感じてしまった。そして、少し見た目が質素で、おしゃれに欠けていてあまり利用したいと思えるようなものではなかった。

2. 課題定義

2.1. 顕在的ニーズ

この感じたことから読み取れる潜在的ニーズとして挙げられるのは、多く保管されている本などで、占拠されている空間をもう少し広くすることで、開放的な空間にしてほしい。そして、東京にあるような近代的でおしゃれと感じる人が多い空間や、公益大の外観にも用いられているレンガが使われている、ヨーロッパで多く見かけるおしゃれな建物のような空間にすることで、雰囲気のある空間が好きな人が勉強をしたいと思えるような空間にしてほしいというニーズを読み取った。

2.2. 潜在的ニーズ

この顕在的ニーズから読み取れる潜在的ニーズとして、スタバのようなおしゃれな空間でパソコンを開いて勉強をしている人のように、自分もおしゃれな空間で勉強をして、気取りたいという潜在的ニーズ。それに加え、開放的な空間が欲しいという点から、圧迫感から生まれる緊張感を取り除くことによって、リラックスした状態で図書館を利用したいという潜在的ニーズを読み取った。

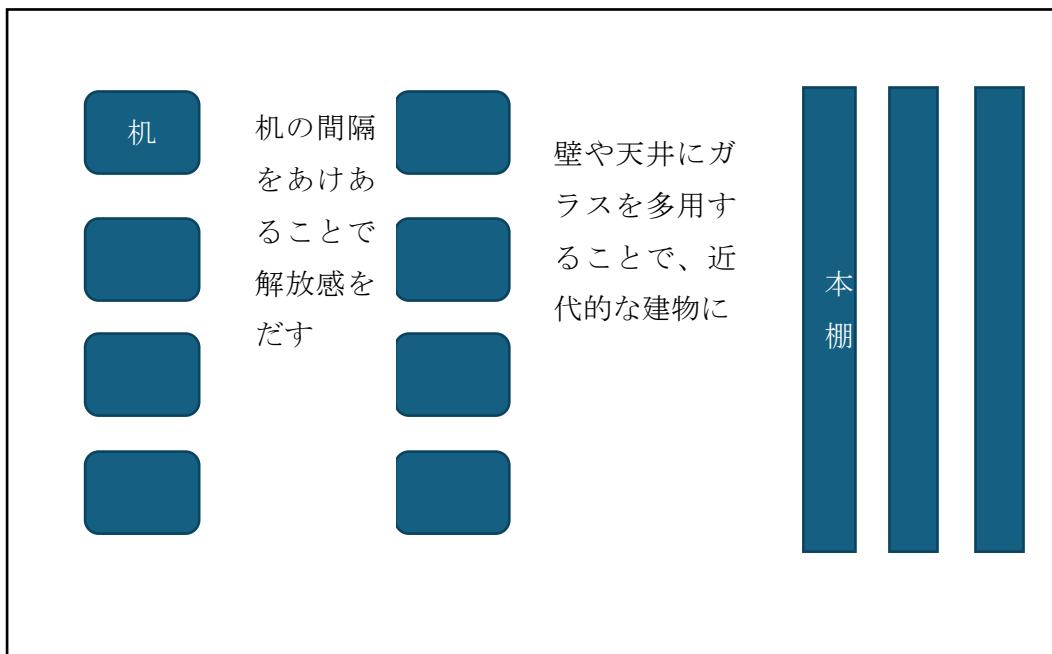
2.3. 課題

このニーズから出てきた課題として、もう少し図書館自体を広くし、本を保管できるスペースを増やしてその分空いたスペースを勉強スペースにする。もしくは、図書

館自体を新しく作ることによって、綺麗さと広さを兼ね備えた図書館にしたいという課題が挙げられる。

3. プロトタイプの提案

今回のプロトタイプのコンセプトは、「SNS 映えするような、若者が使いたくなるようなおしゃれな図書館」である。



4. 期待される効果

最近の若者はインスタ映えやおしゃれに弱いため、勉強や読書あまり好きではない人でも比較的利用しやすい空間となる。そこから、どうせ勉強するならこのおしゃれな図書館に行こうという思考が生まれ、勉強のモチベも上がり、学力が向上する。勉強以外にも、スタッフでおしゃれな雰囲気を味わいながら休憩するように、おしゃれな図書館で空いた時間に雰囲気を味わいながらリラックスすることで休憩目的での利用も増えるなどといった効果が期待される。